熊本大学教育学部紀要
第71号, 23－29, 2022

中学校国語教科書における「だろう」の変遷

山　下　真　里

Changes in the interpretation of the auxiliary verb ‘darou’ in Japanese textbooks of junior high schools

Mari Yamashita

（Received September 30, 2022）

1　はじめに

現代において「だろう」は，以下の（1）（2）の例文のように動詞や名詞などに後接し，推量の意味を表す．

（1）これからの子どもたちには縁のない話になるだろうか．
（「天声人語」『朝日新聞』2022 年 6 月 21 日）
（2）普通テレビドラマでの役作りは，俳優それぞれでするのが常識だろう．
（「令和テレビ時評」『朝日新聞』2020 年 8 月 15 日）

ところで，この「だろう」についての説明は，教科書会社ごとに説明が異なっている．令和 4 年発行の中学校 2 年生の国語教科書を例に見てみよう．東京書籍と三省堂における「だろう」の記述をまとめると，以下のようになる．

東京書籍：助動詞の 1 つとして「だろう」を挙げる．
三省堂　：「だろう」は，断定の助動詞「だ」の未然形「だろ」と推量の助動詞「う」の 2 つからなるものとする．

この記述から，国語教科書では「だろう」を 1 つの助動詞とみる立場と，2 つの助動詞からなるもの（断定の助動詞の未然形「だろ」＋意志・推量の助動詞「う」）とみる立場の少なくとも 2 つがあることがうかがえる．このように，教科書会社によって「だろう」の説明が異なっていること自体は，松崎（2021）や足立（2016）で指摘されている．

それでは，これまでの中学校国語教科書では「だろう」はどのように説明されてきたのだろうか．本稿では，中学校国語教科書における「だろう」の説明の変遷を明らかにする．また，「だろう」の説明が複数存在する理由について，先行研究をもとに整理する．

2　調査方法

対象とした教科書会社は，東京書籍，光村図書，三省堂，教育出版，学校図書の 5 社である．教科書は，昭和 57 年から令和 4 年までに刊行されたものを対象として，以下の検定済み年の記載を持つ教科書 1 冊を対象とした．例えば，昭和 61 年に検定が行われた教科書の場合，東京書籍では昭和 64 年刊行，光村図書では昭和 63 年，三省堂では昭和 62 年，教育出版では昭和 64 年，学校図書では昭和 63 年刊行の教科書を対象とした．このように，検定済み年が同一になるように調査を行った．教科書は，基本的に中学 2 年生のものを対象としたが，助動詞に関する記述がない場合，中学 3 年生の教科書も調査した．

〈検定済み年〉
昭和 55 年，昭和 61 年，平成 4 年，平成 8 年，平成 13 年，平成 17 年，平成 23 年，平成 27 年，令和 2 年

調査では，「だろう」に関する記述を集めるため，助動詞の一覧表と助動詞の解説ページを確認した．教科書の中には，「だろう」についての直接的な記述がなく，断定の助動詞「だ」の解説や活用表において，「だろ＋う」の場合は動詞・形容詞に接続することを指摘するものがあるが，このような記述も収集した．

3 調査結果

3.1 説明のタイプ

調査した教科書における「だろう」の記述を整理し，「助動詞認定タイプ」「分解説明タイプ」「接続説明タイプ」「実態説明タイプ」の 4 つに分類した．調査した教科書における「だろう」の記述はすべて，このいずれかのタイプに該当する．以下の図 1 ～ 4 に 4 タイプの記載例を示した．なお，以下の図はすべて令和 4 年刊行の教科書による．

〈助動詞記述の 4 タイプ〉
助動詞認定タイプ……「だろう」を助動詞の 1 つと認め，助動詞一覧等に「だろう」を挙げるもの（図 1）．
分解説明タイプ……「だろう」は，断定の助動詞の未然形「だろ」＋推量の助動詞「う」からなることを説明するもの（図 2）．
接続説明タイプ……断定の助動詞の未然形「だろ」は，動詞･形容詞にもつくことを説明するもの（図 3）．
実態説明タイプ……推量の意味では「う・よう」より「だろう」が使用されること，「う・よう」は「だろう」に言い換えられることを説明するもの（図 4）．

助動詞認定タイプは，「だろう」を 1 つの助動詞と認めるものである．図 1 のように，助動詞一覧の中に「だろう」が含まれていたり，助動詞として「だろう」を挙げたりするものが該当する．

分解説明タイプは，「だろう」を断定の助動詞「だろ」＋推量の助動詞「う」ならなるとするもので，「だろう」を 2 つの助動詞に分解して説明するものである．この説明に加えて，「だろう」を助動詞の一つとする考え方もあることを説明するものもある．

接続説明タイプは，断定の助動詞「だ」の接続について，「だろ」は動詞・形容詞にもつくことを説明するものである．このような説明は，図 3 のように，断定の助動詞「だ」の活用表の備考欄や接続を説明する部分などにある場合が多い．

実態説明タイプは推量の意味では「う･よう」より「だろう」の方が使用されることを説明するものである．このタイプでは，「だろう」を 1 つの助動詞とみるか，2 つの助動詞とみるか，といった考え方は反映されていない．図 4 には「推量の意味での「う・よう」は，現在では「だろう」を使うのが普通である」という説明があるが，このようなものが該当する．なお，このタイプには「推量の意味での「う・よう」は「だろう」にと言い換えられることが多い」（東京書籍　平成 23 年）のように，言い換えられることを指摘するものも含む．

最後に，「助動詞認定タイプ」「分解説明タイプ」「接続説明タイプ」の 3 タイプについて，「だろう」を 1 つの助動詞と見ているのか，2 つの助動詞からなると見ているのかという点を確認しておこう．助動詞認定タイプは「だろう」で助動詞と認定していることから，1 つの助動詞としていることが明確である．分解説明タイプについても，「だろう」は断定の助動詞「だろ」＋推量の助動詞「う」からなることを明示することから，2 つの助動詞からなると見ていることは明確である．一方，接続説明タイプは，直接的に「だろう」が 1 つの助動詞，あるいは 2 つの助動詞からなるということを説明はしていないが，断定の助動詞「だ」の備考欄などで「だろ」＋「う」の場合は形容詞・動詞にも接続することを述べていることから，「だろう」を 2 つの助動詞からなるとする立場であると判断した．以上をまとめると次のようになる．

「だろう」を 1 つの助動詞とみるタイプ　→　助動詞認定タイプ
「だろう」を 2 つの助動詞とみるタイプ　→　分解説明タイプ　接続説明タイプ

助動詞認定タイプ

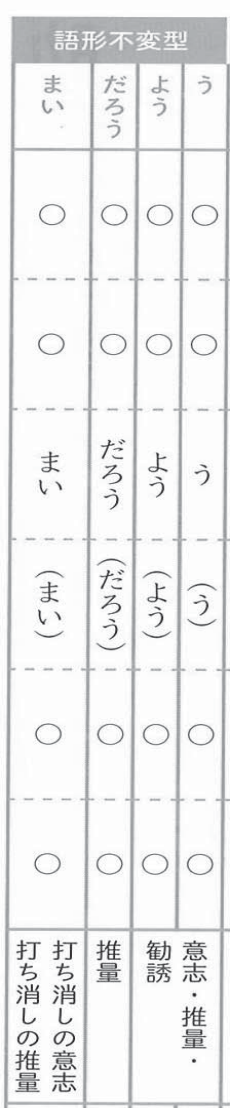


図 1
東京書籍 268 ページ

分解説明タイプ

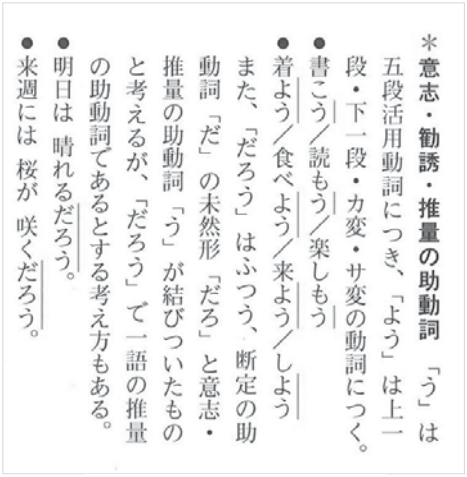


図 2
三省堂 235 ページ

実態説明タイプ

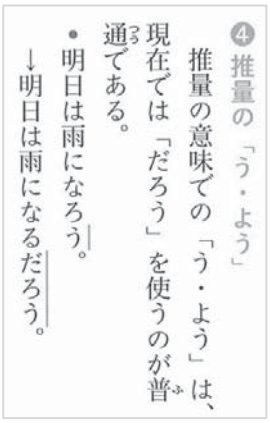


図 4
東京書籍 263 ページ

接続説明タイプ



図 3
光村図書 250 ページ

3.2 「だろう」についての記載の変遷

教科書会社 5 社における「だろう」についての説明の変遷をまとめたものが表 1 である．表 1 では，3.1 節で説明した 4 つのタイプのどれに該当するかをまとめた．表 1 の空欄は，「だろう」についての記述がみられなかったことを意味する．令和 2 年の学校図書は黒く塗りつぶされているが，これは学校図書が中学校の国語教科書を刊行していなかったためである．

それでは，表 1 から「だろう」についての説明の変遷を見ていこう．以降では煩雑になることを避けるため，刊行年ではなく，検定済み年で教科書を特定することにする．調査した教科書の刊行年については，論文末の調査資料を参照されたい．

はじめに，助動詞認定タイプに着目して表 1 を見てみると，最初に登場するのは，東京書籍の平成 13 年からであることがわかる．東京書籍はその後一貫して助動詞認定タイプである．それに対して，他の 4 社の教科書では，助動詞認定タイプは一度も見られないことがわかる．つまり，現在に至るまで，「だろう」を 1

つの助動詞として認定しているのは東京書籍の教科書のみなのである．一方，「だろう」は 2 つの助動詞からなるとする分解説明タイプ，接続説明タイプに着目すると，これは光村図書，三省堂，教育出版の 3 社に見られることから，「だろう」を 2 つの助動詞とすることが主流であることがうかがえる．

図 1 「だろう」についての記載の変遷

検定済年	東京書籍	光村図書	三省堂	教育出版	学校図書
昭和 55 年	実態説明	分解説明		接続説明	
昭和 61 年	実態説明	分解説明	※ 1	接続説明	
平成 4 年	実態説明	分解説明	※ 1	実態説明	※ 2
平成 8 年	実態説明	分解説明	※ 1	実態説明	
平成 13 年	助動詞認定		分解説明／接続説明	接続説明	※ 2
平成 17 年	助動詞認定／実態説明	接続説明	分解説明	接続説明	※ 2
平成 23 年	助動詞認定／実態説明	接続説明	分解説明	接続説明	
平成 27 年	助動詞認定／実態説明	接続説明	分解説明	接続説明	
令和 2 年	助動詞認定／実態説明	接続説明	分解説明	接続説明	

※ 1　解説はなく，助動詞「まい」の説明文中で（筆者注：助動詞「まい」は）「否定の推量（何々しないだろう）の助動詞」のように「だろう」が使用されていた．

※ 2　助動詞「う・よう」の解説の中で「だろう」の用例「ぴたり命中するだろう」が挙がっていた．なお，下線は「う」の部分に引かれていた．

次に，教科書会社ごとに変遷を見てみよう．東京書籍は，昭和 55 年から平成 8 年まで実態説明タイプであったが，平成 13 年に助動詞認定タイプとなり，平成 17 年以降は助動詞認定タイプと実態説明タイプの両方が見られるようになる．光村図書は，昭和 55 年から平成 8 年までは分解説明タイプであったが，平成 13 年は記述がなく，その後平成 17 年以降は接続説明タイプであった．三省堂は，平成 13 年に「だろう」についての説明が見られるようになる．この年は分解説明タイプと接続説明タイプであったが，平成 17 年以降は分解説明タイプであった．教育出版は，昭和 55，61 年は接続説明タイプ，平成 4，8 年は実態説明タイプ，平成 13 年以降は接続説明タイプに戻るという変遷を辿っている．学校図書は昭和 55 年から平成 27 年まで「だろう」に関する説明は見られなかった．このような変遷から，平成 4 年と 8 年は光村図書と教育出版が実態説明タイプで共通するものの，その他は，どの年代においても教科書会社間で説明が異なっていることが明らかになった．「だろう」についての説明が教科書間で異なることは，昭和 55 年以降現在に至るまで続いていたのである．

4　参考書における「だろう」の記述

3 節では中学校の国語教科書における記述を見てきたが，本節では，書店などで購入できる学習参考書における記述を確認しておきたい．今回は，『くわしい国文法　中学 1 ～ 3 年』（文英堂　2016 年）と『くもんの中学基礎がため 100%　中学国語　文法編』（くもん出版　2019 年）2 つの参考書を対象とした．

まず，『くわしい国文法　中学 1 ～ 3 年』を見てみよう．推量の意味を持つ助動詞として挙げられているのは「う」「よう」であり，「だろう」は見られない．ただし，「だろう」に関する記述は，「う」「よう」についての補足的な説明の部分に見られた．以下に引用する（下線は筆者による）．

> 「う」「よう」の意味は，特に推量の意味の時に推量かどうか判断に迷いやすい．普通の話し言葉では，推量の「う」「よう」を動詞･形容詞につける言い方を，あまり用いないからである．この場合，「だ」「です」に推量の「う」をつけた形，すなわち「だろう」「でしょう」がよく用いられるから，「う」「よう」の代わりに「だろう」か「でしょう」を入れてみて適当な形に直し，文の意味が通るかどうかを調べるとよい．（165 ページ）

「う」「よう」の意味を判定する方法の説明中で，「だろう」は「だ」「です」に「う」をつけた形であることを述べていることから，「だろう」は 2 つの助動詞からなるという立場であることがわかる．加えて，この参考書では，断定の助動詞「だ」の解説の中で，未然形「だろ」の時は，動詞･形容詞の終止形，助動詞「れる」「られる」「せる」「させる」「たがる」「ない」「たい」「ぬ（ん）」「た（だ）」の終止形に接続するという記述が見られた．

以上のような記述は，3.1 節に示した「だろう」の説明のタイプに分類すると，分解説明タイプと接続説明タイプに該当する．

次に，『くもんの中学基礎がため 100%　中学国語　文法編』を見てみよう．こちらでも推量の助動詞として挙げられているのは「う」「よう」のみで「だろう」は見られない．ただし，断定の助動詞「だ」の解説で「参考」として「だろう」への言及が見られた（105 ページ）．以下に引用する．

> 「だ・です」は，体言（名詞）や助詞の「の」・「ほど」・「だけ」，動詞・形容詞の終止形などに接続する．
> 例　・次は国語の授業だ（です）．　（体言）
> 　　・今日こそやるのだ（です）．　（助詞）
> 　　・山に登るだろう（でしょう）．　（動詞の終止形）

ここでは，断定の助動詞「だ」の接続について，動詞・形容詞の終止形に接続することを指摘し，該当する例として「だろう」を挙げている．以上の記述は 3.1 節に示した「だろう」の説明のタイプに分類すると，接続説明タイプにあたる．

本節では，学習参考書における「だろう」の記述を確認した．数多く存在する参考書のごく一部のみを見たにすぎないのであるが，今回参照した『くわしい国文法　中学 1 ～ 3 年』『くもんの中学基礎がため 100% 中学国語　文法編』では，いずれも「だろう」を 2 つの助動詞からなるとする考え方であることが明らかになった．さらに調査多くの参考書を調査する必要はあるが，「だろう」を 1 つの助動詞とする考え方はここでも少数派であることがうかがわれた．

このような状況であるので，東京書籍の教科書で学んでいる生徒の場合，教科書では「だろう」を 1 つの助動詞としていたが，参考書では「だろう」は 2 つの助動詞からなるとしていた，というように「だろう」についての記述に齟齬がある事態に直面してしまう可能性がある．

5　2 つの立場が存在する理由

それでは，学校文法においてなぜ「だろう」を 1 つの助動詞とする立場と 2 つの助動詞とする立場の 2 つが存在するのだろうか．本節ではこの点について，先行研究をもとに整理したい．

まず，「だろう」で 1 つの助動詞とみる理由は，現代日本語における「だろう」の接続と担う意味にある．「だろう」接続について，足立（2016）では以下のように述べている．

> 学校文法では「降るだろう」の「だろう」は，断定の助動詞「だ」の未然形「だろ」＋「う」として扱われるが，推量の表現「だろう（でしょう）」は，名詞だけでなく，動詞，形容詞，形容動詞のいずれにも付いて，推量を表すことができるため推量の助動詞として一語と見る説もある．（284-285 ページ）

学校文法において断定の助動詞「だ」の接続は，「体言」および「助詞「の」」とされている [1]．一方，「だろう」は足立（2016）が指摘するように，動詞，形容詞にも接続する [2]．つまり「だろう」の「だ」を断定の助動詞と考える場合，「だろう」が動詞，形容詞に接続することは，つじつまが合わないのである．足立（2016）はそのことを指摘しており，「だろう」の接続と断定の助動詞「だ」の接続が異なっていることから，1 つの助動詞として見る立場があるとしている．このことに加え，『日本国語大辞典（第二版）』の語誌では，「だろう」と「う・よう」との意味分担が行われたことも指摘されている [3]．

> 現代語においては，「う・よう」が意志を表わす用法に限られつつあるのに対して，「だろう」は推量表現をになう基本的な形式となっている．「だ」が活用語に付かないのに対して，「だろう」は自由に接続し，

また，断定の機能がうすれて，もっぱら推量表現にあずかるところから，「だろう」を一語の推量の助動詞として扱う立場もある．また，「こと」「はず」など形式体言につづく連体法もあるが，ほとんど終止法だけに用いる．

このように，「だろう」が「だ」とは異なる接続であること，推量の意味を担う基本的な形式となっていることから，「だろう」で 1 つの助動詞であるとするのである．

一方，「だろう」を 2 つの助動詞からなるとする理由は，「だろう」の成り立ちに関係していると考えられる．『日本国語大辞典（第二版）』では，「だろう」について「であらう」が変化した語であることを指摘する．「であらう」から「だろう」への変化については，断定の助動詞「だ」の変化がかかわっている．断定の助動詞「だ」は，「である」＞「であ」＞「だ」と変化したと考えられている[4]．つまり，「だろう」はもともと断定の助動詞「だ」と「う」からなるもので，「だろう」を 2 つの助動詞からなるとする考え方は，成り立ちに即して解釈していると推察されるのである[5]．

以上，「だろう」を 1 つの助動詞とする立場と 2 つの助動詞とする立場がある理由について先行研究を整理しながら確認してきた．ここまで見てきたように，1 つの助動詞としてみる立場は，現代日本語における接続・意味といった使用実態に即して，2 つの助動詞としてみる立場は，成り立ちに即して解釈しており，どちらの立場が正しい，あるいは違っているというわけではない．

6 おわりに

本稿では，中学校国語教科書を対象として「だろう」の説明を調査し，その変遷を明らかにした．また，「だろう」を 1 つの助動詞とする考え方と 2 つの助動詞からなるとする考え方が存在する理由について，先行研究をもとに整理し，現代日本語の使用実態に即して考えるのか，成り立ちに即して考えるのかという点が異なっているだけであることを述べた．

本稿での調査によって，「だろう」を 1 つの助動詞とする立場は教科書でも学習参考書でも少数であることが示唆された．したがって，「だろう」を 1 つの助動詞として教える場合は，「だろう」は 2 つの助動詞からなるとする立場もあることを説明する方がよいように思われる．また現状，教科書によって「だろう」が 1 つの助動詞とするか，2 つの助動詞からなるとするかが異なることから，試験問題などでは特に注意が必要である．

「だろう」についての説明が異なる状態は，学校教育での混乱を避けるためにも解消された方がよいと思うが，どのような解釈に統一すべきかについては，国文法を学ぶ意義とも関わっているように思われる．今後，議論や検討が行われることを期待したい．

調査資料

〈教科書〉

【東京書籍】

昭和 57 年『新しい国語二』2／昭和 64 年『新しい国語二』2／平成 6 年『新しい国語 2』／平成 10 年『新しい国語 2』／平成 15 年『新しい国語 2』／平成 23 年『新しい国語 2』／平成 24 年『新しい国語 2』／平成 28 年『新しい国語 2』／令和 4 年『新しい国語 2』

【光村図書】

昭和 57 年『国語 2』2／昭和 63 年『国語 2』／平成 6 年『国語 2』『国語 3』／平成 10 年『国語 2』『国語 3』／平成 16 年『国語 2』『国語 3』／平成 22 年『国語 2』／平成 24 年『国語 2』／平成 28 年『国語 2』／令和 4 年『国語 2』

【三省堂】

昭和 57 年『現代の国語 2』『現代の国語 3』／昭和 64 年『現代の国語 2』／平成 6 年『現代の国語 2』／平成 10 年『現代の国語 2』／平成 15 年『現代の国語 3』／平成 23 年『現代の国語 3』／平成 24 年『中学生の国語二年』『中学生の国語三年』／平成 28 年『現代の国語 2』／令和 4 年『現代の国語 2』

【教育出版】

昭和 58 年『中学国語 2』／昭和 64 年『中学国語 2』／平成 6 年『中学国語 2』／平成 10 年『中学国語 2』／平成 15 年『中学国語　伝え合う言葉 2』／平成 22 年『伝え合う言葉　中学国語 2』／平成 24 年『伝え合う言葉　中学国語 2』／平成 28 年『伝

え合う言葉　中学国語 3』／令和 3 年『伝え合う言葉　中学国語 2』

【学校図書】

昭和 57 年『中学校国語二』『中学校国語三』／昭和 63 年『中学校国語 2』／平成 6 年『中学校国語 2』／平成 10 年『中学校国語 2』／平成 16 年『中学校国語 3』／平成 22 年『中学校国語 3』／平成 24 年『中学校国語 2』／平成 28 年『中学校国語 2』

〈学習参考書〉

『くわしい国文法　中学 1 ～ 3 年』（文英堂　2016 年）

『くもんの中学基礎がため 100%　中学国語　文法編』（くもん出版　2019 年）

〈新聞記事〉

『朝日新聞』2022 年 6 月 21 日「天声人語」

『朝日新聞』2020 年 8 月 15 日「令和テレビ時評」

参考文献

足立さゆり（2016）「第 9 章　近現代の助動詞」『品詞別学校文法講座　第六巻助動詞』明治書院

大木一夫（2014）「指定の助動詞」『日本語大事典（上）』朝倉書院

佐伯哲夫（1993）「ウとダロウの職能分化史」『国語学』174

田中章夫（1959）「近代語成立過程にみられるいわゆる分析的傾向について」『香川国文』2

長井香奈子（2008）「「う」と「だろう」」『国文学』92

松崎史周（2021）「中学校国語科における「助動詞」の扱い」『国士館人文学』11

山口秋穂（1971）「だろう」『日本文法大辞典』明治書院

『日本国語大辞典（第二版）』「だろう」　ジャパンナレッジ Lib　https://japanknowledge.com/library/

---

[1] 令和 4 年刊行の中学 2 年国語教科書（東京書籍，光村図書，三省堂）において，断定の助動詞「だ」の接続を確認した．

[2] なお，足立（2016）は「だろう」の接続に形容動詞も挙げるが，学校文法では「だろう」の接続として形容動詞は挙げられておらず，動詞・形容詞とされている．このことについて，形容動詞「きれいだ」を例に見てみよう．この推量形は「きれいだろう」となるが，学校文法ではこれを形容動詞未然形「きれいだろ」＋推量の助動詞「う」と解釈する．形容動詞の場合には，未然形活用語尾に推量の助動詞「う」が接続したとみるため，「だろう」の接続に形容動詞は挙げられていないのである．

[3] 「う・よう」と「だろう」の意味分担については，佐伯（1993），長井（2008），田中（1959）などに詳しい．

[4] 大木（2014）による．

[5] 断定の助動詞「だ」の語形変化を踏まえると，「だろう」の成り立ちは断定の助動詞「だ」＋推量の助動詞「う」と解釈できるのであるが，成立当時の「だろう」も動詞に後接していた可能性はある．『日本国語大辞典（第二版）』の「だろう」で推量の意味の初出用例は（1）のようであった（以降，下線は筆者による）．また，日本語歴史コーパスでも用例を確認したが，動詞に後接する古い例が（2）（3）のように複数見られた（中納言　2.6.1 データバージョン 2022.03）．

（1）『弐百五十取らすに行ねへな．琴公も行くだろうの』『わっちは御めんだぞ』　洒落本・美地の蛎殻　1779 年

（2）それてめへも知ツているだろう．　侠者方言　1771 年

（3）やつはり．来るだらふ　南閨雑話　1773 年